

# 県連ニュース

2012年4月1日発行  
栃木県勤労者山岳連盟

栃木県勤労者山岳連盟 第37回定期総会議事録・・・	1
県連第37回定期総会への全国連盟からのメッセージ・・・	3
2012年度の全国集会・会議の予定・・・	4
2012年度の栃木県連の予定・・・	5
2012年清掃登山・クリーンハイクアピール・・・	6

## 栃木県勤労者山岳連盟 第37回定期総会議事録

日時：平成24年3月11日 9時15分から11時30分

場所：宇都宮市中央生涯学習センター

代議員定数 60名

総会出席者数

開会時：代議員出席41名、委任状11名 計52名

1 開会宣言 八木沢理事長（以下敬称を略させていただきます。）

開会宣言後、東日本震災1周年に当たり、黙祷を捧げる。

2 会長挨拶 増田会長

昨年の東日本大震災に際しての県連の支援活動内容の報告及び各会の協力に対する謝意、今年も引き続き支援を実施していきたい。県連の役割について、登山者の初歩的なミスによる事故多発の中、各会の積極的な安全対策により事故は無発生だが、引き続き登山文化の継承と事故防止のため、安全対策を県連として推進していきたい。

3 全国労働者山岳連盟、斉藤会長の祝辞朗読

4 総会役員選出 議長 島田（山人） 書記 阿久津（悠遊）

5 議長挨拶

6 議事

(1) 議事日程提案 八木沢理事長

(2) 総会成立の可否確認報告 吉岡事務局長

代議員定数60名、出席代議員数41名、委任状11名、合計52名 本総会は成立。

(3) 議案提案・説明

ア) 第37回総会の意義と目的 説明 八木沢理事長

イ) 2011年度の反省と2012年度方針（案）P2. 3参照 八木沢理事長

ウ) 2011年度の活動のまとめ・2012年度活動方針（案）各部

a 事務局 説明・提案 P4 参照 吉岡事務局長

b 組織部 説明・提案 P5・6・7 参照 八木沢理事長

栃木県勤労者山岳連盟 発行責任者：増田俊雄 編集責任者：橋田弘一

321-0345 宇都宮市大谷町1109

<http://www.geocities.jp/tochigirosan/>

c 遭難対策委員会・教育部	説明・提案 P 8・9 参照	竹内理事
d 自然保護部	説明・提案 P 10・11 参照	森理事
e 広報部	説明・提案 P 12 参照	橋田理事
f 救助隊	説明・提案 P 13 参照	森理事
g 海外登山委員会	説明・提案 P 14 参照	森理事
h ハイキング楽校	説明・提案 P 15・16 参照	八木沢理事長
中級ハイキング楽校開校のお知らせ	説明・提案 P 17 参照	吉岡事務局長
エ) 2012年度活動計画(一覧)	提案 P 18 参照	八木沢理事長
オ) 2011年度一般会計・特別会計	決算報告	吉岡事務局長

カ) 2011年度一般会計・特別会計	監査報告	小川監事
キ) 2012年度一般会計・特別会計	予算(案)提案	八木沢理事長

## ②質疑・全体討論

質問者(以下質と記す)大貫(野木): 3点の質問、1、ハイキング楽校の予算で全国連盟から助成はあるのかどうか。2、各種教育はニーズに応じ積極的に計画されているが参加者はどうか、予算を組んで実施するのであるから一人でも多く参加してもらいたい。3、p18の海外登山のアジア山岳計画は6日間で間違いはないか。

回答(以下回と記す):

- 1 八木沢理事長: 予算について、全国連盟から10万円を頂いているが使用せず県連の予算に入れて皆様に還元している、11年度は記入忘れです。12年度も申請する。
- 2 竹内理事: 各種教育に対する参加者はばらつきがある、主原因は皆様に対し周知期間の短さがある、今後は余裕を持った周知期間を考える。また県連に対し実施してほしい希望があれば出してほしい。
- 3 森理事: 海外登山者集会の日程は6月15日からの実施は決まっているが、それ以外は予定であり確定していない。リーダーは韓国人だが合同で実施のため多分12日間位はかかるのではないかと考えられる。

質: 高村(労山かぬま): 自然保護の件で12年度案では自然保護の見直しをすると謳っているがその中身は、また今後の自然保護の在り方は県連としてどのように考えているか説明してほしい。

回: 森理事: 今までは山のゴミ拾いであったが、今後は一例として半分位は道路や河川敷等のゴミ拾いをしてほしい。実施には理事会を通して決定するが、ゴミのみでなく他の行事等で「栃木県連はこうやっている」とのアピールが出来ればと考えている、具体的な見直しは皆様からの意見を求めたい。

議長: 自然保護に関して、何かご提案等があれば意見を求めたい。

大貫(野木): 野木山想会でクリーンウォーキングを4年間実施し行政からも感謝されたが、行政の担当者が代わると対応も変化したため中止となった。県連の社会的価値を高めるためにもやってよいが、やるのだったら各会バラバラでなく一堂に会して多数集まって新聞やマスコミを通じてPRできれば会の社会的な地位向上に役立つのではないかと考える。

議長: その他ご質問、ご意見があればお願いします。

大貫(野木): 意見として、今年度県連は大震災の件等もあり大変だった、気仙沼での支援活動には感謝している、参加して感じたのは命の尊さと、国民として支援の大切さを実感した、本年も活動計画がありよかったと思う。また、海外の5千m級の誰でも登れる様な山に県連の仲間が参加できる機会を作ってくれて感謝している。教育部では具体的な活動が

今まで以上にニーズに応じた計画を実施された、今後も中身も精査されて計画してほしい。  
今回中級ハイキング楽校が開催される、ハイキ

ング楽校と登山楽校が県連内部でやるのは素晴らしい、その際県内の技術者に依頼してはどうか、実施は大変だが具体化してほしい。ハイキング楽校を初級登山楽校の名称としてどうか。また登山文化の継承および労山の原点の考えは山の会にとって大切なものであるが、年齢の高齢化に伴い最近では5～6割が登山でなくなってきている、山の会の立場から今後の在り方について県連としてどうとらえていくのか検討していただきたい。

議長：ご提案の名称の変更、県内技術者の活用及び海外計画につき回答を願います。

回：森理事：中級ハイキング楽校を初級登山楽校への名称変更は今後検討してみる。登山楽校の全体まとめは県連ですが、講師は宇都宮HCの猪鼻様に依頼したい、希望者や協力していただける方があれば検討したい。また、5千m級の海外登山の件について、今の所は最低2週間位の期間で場所は未踏峰を狙ってPRしたいと考えている。

議長：登山文化の継承および労山の原点を踏まえ、今後県連としての方向性について説明していただきたい

回：増田会長：昨年9月全国交流会があり全国連盟のアンケートでは、全体の9割が年齢60歳代、40歳代は0、50歳代が10%であった。会の構成員の状態を踏まえ登山文化のどう受け継いでいくかが問題である、60歳代はまだ若いので夫々の会が山中で救助できるリーダーを育てるのを基本に考える必要がある、労山の基本目的を踏まえ今後どのように改革していくかは県連のみならず労山全体の問題であり皆様の知恵を頂きながら、今後10年後の姿を考えて中長期な展望を一緒に考えていく必要があると思う。それにより登山文化のレベル向上が計ればと考えている。

### ③ 定数確認再確認

出席代議員44名、委任状11名、有効総数55票で成立。

### ④採決：賛成多数で審議事項は可決

### (4) 役員選出

2012年度役員体制 P20参照

役員人事について案のとおり賛成多数で承認された。なお各会で今年度の総会が未終了な所もあるので理事、監事が増えることも含め承認された。

6 以上にてすべての議案が終了し、議長、書記は解任された。

7 閉会宣言 八木沢理事長

平成24年3月11日 書記 阿久津 操 (悠遊クラブ)

## 栃木県勤労者山岳連盟第37回定期総会への 全国連盟からのメッセージ

栃木県勤労者山岳連盟の仲間の皆さん

皆さんの定期総会に当たり、日本勤労者山岳連盟は心からのお祝いのメッセージをお送りいたします。

全国労山は2月18～19日に「震災を乗り越え 新しい仲間を迎えて、大きな一歩を踏み出そう！」をメインスローガンにし、第30回総会を開催しました。

今回は北海道から沖縄まで49地方連盟のうち39地方連盟から70名の代議員が出席し、個人会員制度の導入を中心に活発な

討論が行われました。

昨年の東日本大震災では、経験したことのない被害が発生しましたが、被災地だけでなく全国の労山会員が、義援金や支援のボランティア活動を行い、復興のために大きな活動をしました。今まで私たちが基金などで築いてきた助け合いの精神を、遺憾無く発揮したものと言えます。

個人会員制度の導入については意見が分かれてきましたが、労山会員の年齢構成を考えると待ったなしの状況と言えます。全国連盟と導入を決めた実証区の地方連盟で検証しながら良い制度にしていきたいと考えています。

結果として今回の全国総会では、全ての議案が採択されましたが、組織拡大や重大事故を減らすには各地方連盟や会・クラブで大いに論議・研究して全国連盟と共に取り組むことが重要になっています。ぜひ、ご協力をお願いします。

今回の皆さんの総会が盛会となり、多くの仲間が楽しく安全に登山できるような社会を実現していくための契機となることを期待いたします。

2012年 3月11日

日本勤労者山岳連盟  
理事長 斎藤義孝

## 2012年度の全国集会・会議の予定

労山第30期上期（2012年度）

### 機関会議・集会

第30回全国総会	2月18日～19日 (東京・晴海グランドホテル)
----------	-----------------------------

### 行事・集会

全国雪崩講師研修会	2月10日～12日 (中央アルプス千畳敷)
登山道の放射能汚染測定結果について	5月17日 (東京・全国連盟事務所)
青年学生読図講習会	5月 (神奈川・丹沢)
青年学生クライミング講習会	6月 (神奈川・ )
青年学生沢登り講習会①	8月 (神奈川・丹沢)
青年学生沢登り講習会②	9月
中央登山学校・指導者セミナー	
MFAインストラクター養成講座	
全国ハイキング学校	9月15～16日 ( )
全国登山者自然保護集会	11月17～18日 (大阪・高槻市民会館)
第12回東日本女性登山交流集会	10月13～14日 (山形・神室連峰)

### 海外登山、トレッキング

せの国ブータン チョモラリ・リンシトレッキング	6月5日から16日間の予定 (ブータン)
UAAA 合同登山隊	6月15日～21日 (モンゴル4千m峰の予定)

### 国際会議・集会

アジア山岳連盟 (UAAA) 理事国会議	5月 (イラン・ )
アジア山岳連盟 (UAAA) 年次総会	10月 (韓国・ )

### 友好山岳団体との共同の集会・会議等

国際認定山岳医制度発足記念講演会	2月17日 (札幌) 20日 (東京)
全国山岳遭難対策協議会	7月 日 (東京都)

## 2012年度の栃木県連の予定

### 県連行事

第37回定期総会	12年 3月11日(日)
第38回定期総会	13年 3月 日(日)

### 理事会

県連第1回理事会	12年 3月26日(月)
第1回県連各会代表者、正副会長および理事、合同会議	4月16日(月)
県連第2回理事会	6月11日(月)
県連第3回理事会	8月 6日(月)
県連第4回理事会	10月15日(月)
県連第5回理事会	12月10日(月)
第2回県連各会代表者、正副会長および理事、合同会議	13年 1月21日(月)
県連第6回理事会	2月18日(月)

### 自然保護活動

足尾春の植樹デー	12年4月21・22日(土・日)
全国一斉クリーンハイキング	6月 3日(日)

### 救助隊

足尾春の植樹デー	12年4月21・22日(土・日)
----------	------------------

### 交流ハイキング実行委員会

県連交流ハイキング in 震災ボランティア	12年10月13・14(土・日)
-----------------------	------------------

# 山からゴミをなくし、 素晴らしい自然を守りましょう



～2012年清掃登山・クリーンハイクアピール～

山を歩くとき、木々の芽吹きとさまざまな花、すばらしい景色を楽しみ、私たちは、山の自然から多くの恵みを受けとっています。そして、日常生活のストレスを解消するとともに、生きる喜びとエネルギーをも生み出してくれているのではないのでしょうか。

山歩きの途中にゴミが捨てられ、汚されているのを目の当たりにすると、山歩きの楽しみが奪われるのではないのでしょうか。

日本勤労者山岳連盟は、山歩き、登山を楽しむだけでなく、素晴らしい山岳自然を次世代に引き継いでいくために、山からゴミをなくすことは、私たち登山者が果たさなければならぬ大切な役割であると考えています。そのために、独自に「労山自然保護憲章」を制定し、山を汚さず、山に負担をかけない登り方を心がけ、壊れた登山道を整備するとともに、山や自然の変化を定期的に調査するな

ど山岳環境を守るための活動を行っています。

全国的な行動としては、6月の第1日曜日(東北、北海道は7月)を全国いっせい清掃登山・クリーンハイクの日として、山からゴミを一掃する取り組みを行っています。

昨年は、35都道府県の地方組織で551の山岳会・山の会・クラブが468のコースで清掃登山・クリーンハイクに取り組みました。この行動には、一般参加の方々も含め10,351名が参加しました。そして回収されたゴミは7,989トン以上にも及んでいます。

今年も山の自然を愛し、登山を楽しむ登山者・ハイカーにも参加していただき、全国いっせいに清掃登山・クリーンハイクの行動を行います。

いつまでも楽しい山歩きができるように、登山者・ハイカーのみなさんにも下記のようなご協力を呼びかけます。

## 記

- 1、山からごみを一掃するためには、まずゴミは持ち帰ることです。捨てられているゴミを見つけたら拾って持ち帰ってください。お互いに「ゴミを捨てない、持ち帰る」ことを合言葉にして山歩きを楽しみましょう。
- 2、ゴミがなく、きれいになった山域でも油断は禁物です。清掃登山を日常的に心がけ、登山者・ハイカー、行楽客にゴミの持ち帰りをアピールしましょう。
- 3、すべての登山者・ハイカーが山と緑の番人・山岳自然を守る番人としての自覚をもって山歩きを楽しみましょう。



2012年6月 日本勤労者山岳連盟